

輸出向け有機茶製造工場が稼働

産業振興への思い熱く

藤枝市・葉つピイ向島園

【静岡支局】藤枝市瀬戸ノ谷にある葉つピイ向島園では、約35年前から茶の有機栽培を行っている。

向島園では「一本仕立て」

という栽培方法を行っている。挿し木は極限の小ささの一節一葉を使い、育苗せずに直接圃場に植え込むというものの。また、茶の木のストレス軽減を目的に株間を広く取っている。こうすることで根張りが良くなり、幹は一般的な栽培方法のものより10倍以上太くなるという。

園主の向島和詞さん(31)

は、「育ったお茶の木に触ると強い生命力を感じることができる。お茶も生きている」と話す。

「お茶と持続的に共存共榮していきたい」という思いを持って茶栽培に取り組む向島園。茶と向き合った結果、本来の生命力を導き出し、茶の木に合わせた生産方法がいいのではという考え方から農業・

化学肥料不使用で栽培を続けたという。安全・安心を実証するため、2000年に有機JASの認証を取得し

てきたり。安全・安心を建

設。茶価低迷で経営が厳しくなっている地域の生産者から生葉を集め、高付加価値の輸出向け有機煎茶と有機てん茶を製造している。

向島さんは当

初、輸出に関心がなかつたが、「有機栽培が広まり、静岡のお茶作りが盛んになるのであれば、作り手と買

い手の両者をつなぐ役割をすることは、地域貢献になる」と考え、地域おこしを買って出た。

「自分のお茶を飲んだ人が葉つピイ(ハッピー)になつてしまい」と話してくれた。



(鈴木康)